ゴダールのマリア（1984）

LE LIVRE DE MARIE JE VOUS SALUE MARIE
HAIL MARY

メディア	映画
ジャンル	ドラマ
製作国	スイス／フランス／イギリス
色彩	Color
時間	110分
初公開日	1986/03/01
公開情報	ＰＡＲＣＯ
映倫	PG12
リバイバル	2002/09/07［ザジフィルムズ］

【解説】

宗教的テーマを扱って異彩を放つゴダール作品。現代の“処女懐胎”を描いてことのほか真摯である。なのにその保守的体質を例の如くあらわにし、ローマ教会は目くじらを立て、興行価値のそう高いわけではない本作のパブリシティ効果をあげてくれた。がさつなタクシー運ちゃんがジョゼフで、恋人のマリアの突然の妊娠にヤキモキして…などという描写はおカタイ信者には驚きだろうが、その俗っぽい男の反応に対し、にわかに聖なる母性に目覚めていくマリアの描写は、撮影の美しさも相まって、実に感動的。臨月のお腹に月の満ちる絵をモンタージュするなんてことを正々堂々と今やれるのはゴダールだけ。併映のミエビル（ゴダールの私生活上のパートナーでもある）の「マリアの本」は現代フランスの一少女の日常を詩的につづった愛らしい短篇だ。2002年にリバイバル上映された。

【クレジット】

監督	アンヌ＝マリー・ミエヴィル	Anne-Marie Mieville		（『マリアの本』）
	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard		（『こんにちは、マリア』）
脚本	アンヌ＝マリー・ミエヴィル	Anne-Marie Mieville		（『マリアの本』）
	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard		（『こんにちは、マリア』）
撮影	ジャン＝ベルナール・ムヌー	Jean-Bernard Menoud		
	カロリーヌ・シャンプティエ	Caroline Champetier		
	ジャック・フィルマン	Jacques Firman		
	イヴァン・ニクラス			
音楽	フランソワ・ミュジー			
出演	ブルーノ・クレメル	Bruno Cremer	父親	（『マリアの本』）
	オーロール・クレマン	Aurore Clement	母親	（『マリアの本』）
	レベッカ・ハンプトン	Rebecca Hampton	マリー	（『マリアの本』）
	ミリアム・ルーセル	Myriem Roussel	マリー	（『こんにちは、マリア』）
	ティエリ・ロード	Thierry Rode	ジョゼフ	（『こんにちは、マリア』）
	フィリップ・ラスコット		ガブリエル	（『こんにちは、マリア』）
	ジュリエット・ビノシュ	Juliette Binoche	学生ジュリエット	（『こんにちは、マリア』）

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.